

会員通信 No.278

岩手県俳人協会事務局
〒020-0001岩手県盛岡市上米内字赤坂1-60 二階堂光江方
電話・ファクス 019-661-4816

第48回岩手県俳人協会総会・新年俳句会終了

…4年ぶりに懇親会 新年俳句会賞は古川制子氏…

新年度を迎えて

会長 白濱 一羊

会員の皆様におかれましては、御健吟のことと存じます。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症となり、以前の日常生活が戻ってきつつあります。各種俳句大会も通常開催となってきたところが多いようです。岩手県俳人協会の総会・新年俳句会も通常開催ができ、4年ぶりの懇親会も大いに盛り上がりました。昨年度の規約改正により、今回の総会は2月開催となり、参加しやすい状況となりました。来年度以降も2月開催となりますので、ぜひご参加ください。

本部講師として權未知子理事をお招きし、「災害を超えた俳句-京極杞陽の場合」という題でご講演いただきました。この講演を聴きたいということで入会した新入会員もいるほど、興味深い内容でした。權理事には懇親会にも最後までご参加いただき、会員との記念写真や著書へのサインなどにも応じられました。

令和6年度の事業計画・予算案などは全て承認していただきました。規約が一部改正され、これまで名誉会員と顧問は会費が免除されておりましたが、今後は会費の半額をいただくこととなりました。それに伴い、これまで名誉会員と顧問にお願いしていた協力金はなくなりましたが、任意のご寄付をお断りするものではありません。

昨年度の高村山荘での鍛錬会も大変好評でしたが、今年度は9月29日(日)に金ケ崎町の武家屋敷群を吟行会場として行う予定です。ぜひ、多くの会員の参加を期待しております。

昨年度は11名と二桁の新会員にご入会いただきましたが、退会者は15名、逝去者は5名と新会員数を上回っています。岩手県俳壇の活性化のためにも、積極的なお声掛けをお願いしたいと思います。

◇令和6年度岩手県俳人協会事業予定

◇第48回総会・新年俳句会・懇親会(実施済み)

・期日 令和6年2月24日(土) ホテルメトロポリタン盛岡本館

◇第45回鍛錬会

・期日 令和6年9月29日(日)

・吟行地 金ケ崎町 武家屋敷群 ・句会場 金ケ崎町中央生涯教育センター(予定)

◇会員作品集発行(第46集)

・令和7年1月1日発行予定 ・会員自選10句掲載 ・会員に1部配布(一般頒布1,000円)

◇俳句普及事業の推進

・公民館等の「俳句講座」への講師派遣 ・公民館等への講師派遣事業の拡大、案内ほか

※講師派遣のご希望がある場合は、お早めに、普及部長及川永心(019-645-2418)

または、事務局二階堂光江(019-661-4816)宛ご相談下さい。

◇令和6年度新会員の推薦について

新しい会員の推薦を受け付けます。同封の会員推薦要領をご覧ください、『会員推薦書』用紙に記載の上、事務局宛送付下さい。(推薦受付期間は令和6年4月10日～10月31日)

*本人の了解を必ず頂いて下さい。

○演題 「災害を超えた俳句―京極柁陽の場合」

○講師 俳人協会理事 權未知子先生



演題は昨年のお届けしていた。まさか元日に能登半島で大地震が起きるとは。能登は何年か前に訪ねたことがあるが、大変美しいところ。早く復旧するよう祈っている。

本日は災害と俳句についてお話ししたい。東日本大震災が起きた年に出た「俳句年鑑」に被災地の俳人たちが原稿を寄せた。小原啄葉氏が原発に関して「人間が一步進めば自然は二歩後退する」とお書きになられている。私の故郷である北海道余市町は泊原発からとても近いこともあり、この言葉に感銘を受けた。

倒れたるゴム長襲ふ地震の群れ 森川光郎

どこにも季語はない。季語を超える存在としての災害だ。森川氏（福島）は「季語と体験したものとの乖離の大きさ」をおっしゃっている。

淡雪や瓦礫めぐりて母探す 柏原眠雨

柏原氏（宮城）の句。瓦礫をめぐるという表現に胸を打たれる。

水中花炉心の水の減つてゐる 太田士男

東日本大震災は原発事故が大きな特徴でもあった。水中花を配したところがすごい。炉心の水が減っている不穏な感じがする。

震度3などは揺り籠春眠す 白濱一羊

まるでおどけているような句だが、白濱氏は「誤解を恐れずにあえて書く」と約二万もの死者・行方不明者への弔意や膨大の数の被災者への慰撫を私の俳句に背負

わされても困る」と言う。

私のことをお話しすると、あの当時、被災地の方を慰め、あるいは追悼の意を表するための俳句の特集があったが、句が作れなかった、半端な句しかできなかった。何もできなかったという思いをずっと持ち続けていた。この文章を読み返してみると、あ、本当だなと思う。

芭蕉は「予が風雅は、夏炉冬扇のごとし」と言った。俳句という器にはそれにふさわしい内容を盛り込みたい。現実に対しては無力であったとしても、自力で見つけたさやかな真実がそこにはある。その真実が俳句（文学）の武器となる。非常に心強い言葉だ。

雁風呂と名付けて六日振りの風呂 永瀬十悟

福島の永瀬さんは三月に被災し、締切が五月末の角川俳句賞のために五十句作り受賞された。雁風呂は帰れなかった雁を供養するための風呂だが、被災者のための供養なのかもしれないと思ったりする。五十句を読み返すと、当事者ならではの視点がある。そしてどこかに救いもあると感じる。

双子なら同じ死顔桃の花 照井翠

照井さんは震災句集と言える「龍宮」で大変有名な句になられた。これは非常に印象的な句。桃の花で女の子ということが分かり、なんとも言えず悲しい。

四肢へ地震ただ轟轟と轟轟と 高野ムツオ

車にも仰臥という死春の月 陽炎より手が出て握り飯糰む

「四肢へ」の句。これはもちろん無季。私が一番好きなのは「車にも」の句。「陽炎より」もいい。高野氏は非常に優れた定型感覚をお持ちだ。だからこそ、

あの時にこんな素敵な、というか迫力があり、しかも納得させられる句ができたと思う。

倒・裂・破・崩・礫の街寒雀 友岡子郷

ただひとりにも波は来る花々んど 阪神淡路大震災では全国の俳人が一斉に句を作るという事はなかったが、その中で友岡氏（神戸）の印象的な句だ。一句目はほとんど漢字だけで描いた。二句目は少し時間が経って復興が何とかできそうかなという時期。穏やかで優しく、胸を打たれる。

さて、関東大震災で姉を除く家族全員を亡くした京極柁陽の震災の句を見る。

わが知れる阿鼻叫喚や震災忌 京極柁陽

電線のからみし足や震災忌 燃えてゐし洋傘や震災忌

震災当時は十五歳。句を作るまでには二十年以上の年数がたった。震災忌という言葉が定着した頃だ。しかし、持ち味の自由闊達な句と比べたら面白くない。体験が苛烈だったということだ。その中で「燃えてゐし」の句が一番いいと思う。

柁陽のように、人は圧倒的な事実を前にすると言葉にできなくなるのかもしれない。しかし、われわれ俳人は俳句で世界と繋がっている。これからもなんとか作っていかねばならない。

記録ではなく、出会った事実を詩に昇華していくことが大切だ。経験したこと、見たことに一番ふさわしい言葉を探すのが俳人の使命。何があっても最後に残るのは言葉だと思うからである。

（文責 村井康典）

☆新年俳句会賞(権 未知子先生選)

行く年のまだ名前なき赤子かな 古川 制子

☆権 未知子先生特選(四句)

お引き菜のみちのくぶりの雑煮かな 兼平 玲子
雪に指湿らせ札を数へけり 小野寺昭次
喜寿傘寿米寿卒寿も雪を掻く 岩渕 力耕
梅早し旅のさなかに髪を刈り 岡部 玄治

入選(十七句)

木も石も土器も語り部山眠る 阿部ゆき子
ひきだしの中へのその緒冬深し 伊藤 恵美
初詣出会ふ教へ子みな眩し 大石 文雄
町川の底ありありと年迎ふ 菅野 啓子
裸木の名札読みてはふり仰ぐ 菅野 啓子
採血の針先きらり五日かな 伊藤さとる
白鳥の遠ざかる時美しき 片方みち子
一分の遅れ謝まる初電車 川村 健
初旅や都こんぶをポケットに 及川 智子
初景色雲のとぎれぬ岩手山 鉄本 正人
打つて出る裸参りの第一歩 岡部 玄治
ささめ雪擬宝珠に触れて消えにけり 村木 軍六
たて皺はたぶん気のせみ初鏡 大平 春子
忘年会火種のごとき女みて 澤口 航悠
齊打つアルトで唄ふ母なりし 南 その子
おしまひはフィヨルドの景古曆 篠村恵美子
クリスマスケーキ八十路の夢を買ふ 菅原 典子

☆白濱 一羊先生特選(順に天・地・人賞)

寒満月両性具有かも知れず 川村 查平
一分の遅れ謝まる初電車 川村 健

入選(七句)

サイドラインの付きし投句者冬落暉 佐々木 充

はつゆめの中へづかづか恋敵 伊藤 恵美
裸木の名札読みてはふり仰ぐ 菅野 啓子
ほろ酔の父が読み手の歌留多とり 吉田由紀子
煤逃の夫モンローにはまりけり 佐々木ころ
初旅や都こんぶをポケットに 及川 智子
挨拶は火星へ行くと成人式 榊原 康二
おしまひはフィヨルドの景古曆 篠村恵美子

☆小畑 袖流先生特選(順に天・地・人賞)

ささめ雪擬宝珠に触れて消えにけり 村木 軍六
祈りよりはじまる暮らし福寿草 及川 永心
大根干す「つ」の字に曲る程がよし 沼倉 規子

入選(七句)

竈神おはす厨の淑気かな 及川ふき子
木も石も土器も語り部山眠る 阿部ゆき子
水面揺らぐも動かざる枯蓮 阿部ゆき子
裸木の名札読みてはふり仰ぐ 菅野 啓子
ふつつつと海のかをりの白子汁 佐々木ころ
白鳥の遠ざかる時美しき 片方みち子
心にも片すものあり年用意 小泉千恵子

☆小林 輝子先生特選(順に天・地・人賞)

お引き菜のみちのくぶりの雑煮かな 兼平 玲子
地震津波逃げてとテレビお元日 菊池 節子
兼好と心通はせ読始 山火 律子

入選(七句)

杖のごと傍に歳時記去年今年 工藤 幸子
葛湯とく人のはだへの木の器 柝内 和江
吹雪く夜の時折りまじるピアニシモ 大平 スイ

近道は枯野遠回りも枯野 兼平 玲子
白鳥の遠ざかる時美しき 片方みち子
蓮根の穴ふくよかに祝ひ膳 小野寺昭次
若女舞の袖へ風花二つ三つ 岩渕 洋子

☆馬場 吉彦先生特選(順に天・地・人賞)

近道は枯野遠回りも枯野 兼平 玲子
空也忌や厨の田の実立ちあがる 水鏡 新
柿生らぬ国へ土産の柿吊るす 鈴木 尚子

入選(七句)

熊除けの初の警笛花輪線 佐々木一夫
逃れられぬ時の頸木や暦果つ 佐藤 靖子
ポインセチア小道に紅茶専門店 八重樫美佳
読初や江戸の古地図を傍らに 村井 好子
お引き菜のみちのくぶりの雑煮かな 兼平 玲子
やんはりと書き添ふ賀状じまひかな 佐藤 嘉子
もんぺ穿く僧とは迂闊御慶のぶ 及川 忠子

☆澤口 航悠先生特選(順に天・地・人賞)

梅早し旅のさなかに髪を刈り 岡部 玄治
木も石も土器も語り部山眠る 阿部ゆき子
古曆息子帰ると書き足しぬ 村上眞理子

入選(七句)

小春日の三回忌なり酒二合 及川ふき子
ウクライナ・フィルの第九や雪しまき 馬場 吉彦
大根干す「つ」の字に曲る程がよし 沼倉 規子
初詣出会ふ教へ子みな眩し 大石 文雄
ふるさとも見納めとなり枯木星 阿部野の女
煤逃の夫モンローにはまりけり 佐々木ころ
たて皺はたぶん気のせみ初鏡 大平 春子

☆及川 永心先生特選(順に天・地・人賞)

空つぼの犬小屋の前雪だるま 小林 史枝
 はつゆめの中へづかづか恋敵 伊藤 恵美
 木も石も土器も語り部山眠る 阿部ゆき子

入選(七句)

十二月八日 休日 出勤す 岩渕みゆき
 近道は枯野遠回りも枯野 兼平 玲子
 火炎瓶投げし友より賀状くる 津志田 武
 雪に指湿らせ札を数へけり 小野寺昭次
 料亭の石組みの跡花 八手 大原 宏司
 忘年会火種のごとき女みて 澤口 航悠
 挨拶は火星へ行くと成人式 榊原 康二

☆二階堂 光江先生特選(順に天・地・人賞)

町川の底ありありと年迎ふ 菅野 啓子
 近道は枯野遠回りも枯野 兼平 玲子
 喜寿傘米寿卒寿も雪を掻く 岩渕 力耕

入選(七句)

小春日の三回忌なり酒二合 及川ふき子
 寒菊のぼつりと光る漁村かな 八重樫美佳
 火炎瓶投げし友より賀状くる 津志田 武
 祖父遺す片仮名だけの年賀状 及川 智子
 心にも片すものあり年用意 小泉千恵子
 幸せを撒くごと放つ若菜粥 菅原 典子
 濁酒とくとくと注いでつらの夜 大畑 善昭

◇令和6年度会費納入のお願い

年会費6000円(顧問、名誉会員3000円)
 先にお送りした振込用紙で、4月中の納入をお願い
 いたします。振込料は各自負担になります。

◇岩手県俳人協会新役員(任期2年)

顧問	村上 沙央・小畑 柚流	理事	山火 律子(普及部副部長)
"	小林 輝子・馬場 吉彦	"	工藤 幸子(句会部副部長) 新任
会長	白濱 一羊	"	齋藤 雅博(作品部) 新任
副会長	澤口 航悠	"	片方みち子(句会部) 新任
"	及川 永心(普及部長)	"	村井 康典(事務局次長)
"	二階堂光江(事務局長)	監事	津志田 武
理事	川村 健(句会部長)	"	菊池留美子 新任
"	兼平 玲子(作品部長) 新任	事務局	八重樫美佳(会計担当) 新任
"	相馬 定子(作品部副部長) 新任	"	伊藤 恵美(事業部担当) 新任

☆役員退任の方々です。長い間ありがとうございました。

- 顧問 浅田白道(昨年3月に逝去されました)
- 理事 吉田茂樹(作品部副部長) 安達広子(作品部) 大信田宏子(句会部副部長) 古川和子(句会部)
- 監事 菊池節子 ○事務局 阿部ゆき子(会計担当)

◇令和6年度新入会員紹介 心より歓迎いたします。

- 小笠原志保子(北上市・樹氷) 高橋千衣子(滝沢市・樹氷)
- 大原 宏司(盛岡市・樹氷) 水鏡 新(一関市・一関俳句協会/滝/いつき組)
- 小泉 千恵子(盛岡市・青麗) 吉田由紀子(盛岡市・樹氷)

俳句大会ご案内

◇第31回雑草園祭

- 期日 4月21日(日) ○会場 日本現代詩歌文学館 ○受付 9:30~
- 当日句締切 11:00(詩歌の森公園・雑草園の囀目雑詠2句) ○開会 11:05
- 参加料 1,000円(昼食各自)
- 記念講演 小畑柚流先生(『樹氷』『天為』同人) 演題「俳句の多様化」

◇第66回啄木祭全国俳句大会

- 期日 5月12日(日) ○会場 盛岡市洪民公民館(姫神ホール) ○受付 10:00~
- 当日句締切 11:00(囀目2句、ただし啄木忌も可) ○開会 12:00
- 参加料 1,000円(昼食各自)